

めぐみ

2024年
10月号

学校法人 聖公会北関東学園

認定こども園

初雁幼稚園

〒350-0057 川越市大手町 8-5

Tel 222-5385 Fax 228-5010

初菜-Uina-出店、夢の実現!!

年中組担当 大川戸菜緒

9月8日に彩の国マルシェに参加しました！社会人になってから始めた趣味のアクセサリー作りは元々は自分用でしたが、母の分、そして人へのプレゼントへと作れるものが増え、一昨年、思い切って資格を取得しました。「いつか自分のアクセサリーを販売できたらいいな」そんなざっくりとした夢を持って1年が経った昨年、川越のぞみ教会さんのバザーで販売する機会をいただきました。初めての販売にドキドキしながら、アクセサリーづくりに加えて、ショップ名を考え（資格取得を一番応援してくれていた母の名前から一文字もらい「初菜-Uina-」に決定）、ロゴ作り、アクセサリー台紙やショップカードの印刷等、仕事終わりに作業をする慌ただしい3週間を過ごしました。自分の作ったものが商品として並んだ時、夢への一歩を進んだような感じがしました。ですが、その時は委託販売。「全てを自分で準備する出店をした時こそ、夢が実現する時！」という思いもあったので、「いつの日かできたらいいな」とこれまたざっくりした感じで思っていました。

そんな漠然とした思いを抱きながら、出店者募集のお知らせにとらめっこしては、「また今度にしよう」、そんなことを繰り返していたのですが、6月に届いたメールに「出店者募集」の文字が！すごく悩みましたが、希望者が多い場合には抽選になるとのことで、やれるかどうかは運に任せることにして、気づいたら軽い気持ちで申し込みを終えていました。

8月の初め、出店決定のメールが届き、そこからはまた慌ただしい日々。前回の経験を活かして着々と準備を進め、あっという間にマルシェの日を迎えました。一人での参戦はさすがに不安だったので、詩緒梨先生にお願いし、一緒に参加していただきました。いざ準備を始めると優秀すぎる詩緒梨先生！私がアクセサリーを並べている間に可愛く飾り付けを終わらせ、マルシェが始まるとPOP作りの提案、てきぱきとしたラッピング…いつの間にかバイトリーダーと呼んでいました（笑）

当日は在園の方、卒園生、同僚、友だち、親戚などたくさんの方に足を運んでいただき、嬉しさでとても心が温まりました。初めての方にも購入していただき、私の中の「好き！かわいい！」が詰まったアクセサリーを、たくさんの方に直接お渡しできたことがとても嬉しかったです。まだまだ趣味の延長程度ではありますが、たくさんの方に支えられてできた今回の経験。人との出会いや与えられたチャンスにただただ感謝です。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「心はずませて」

今月のねがい

- さまざまな方法に挑戦し、失敗を重ねながら過ごす
- 友だちといる楽しさを重ねていく
- 神様のくださっている力を出し合い、ともに過ごす

学年別のねがい

- (1歳) 友だちの存在を感じ、いろいろなことをしてみようとする
- (2・満3歳) 周りの友だちに目を向ける
- (年少組) 周りの友だちに目を向けて取り組む
- (年中組) 友だちと力を合わせる
- (年長組) お互いの思いや存在を大切にす

ひとこと

保育部の子どもたちも友だちの存在にホッとす表情や同じことをして笑いあう姿をよく見せてくれます。友だちの存在はどんなに小さな子どもたちにとっても大きい存在であることを思います。大きくなるにつれて、友だちは力を合わせて何かを成し遂げた時の喜びや、自分と違うやり方や思いがあることを教えてくれる存在になっていきます。幼児部の10月は運動会という大きな行事が待っています。神様のくださっている力を出し合い、心も体も弾ませながら、友だちと共にいる楽しさをたくさん味わってほしいと思います。

今月の聖歌

「ふしぎだ ふしぎだ
ふしぎだな」



★予定★

日	曜	行事などの予定
1	火	
2	水	
3	木	
4	金	開園記念日 就労家庭保育実施日
5	土	就労家庭保育実施日
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	アルミ缶回収
11	金	全体礼拝 ↓
12	土	運動会(予備日14日)
13	日	
14	月	スポーツの日
15	火	振替休園 就労家庭保育実施日
16	水	入園説明会
17	木	パパママ先生週間(希望者)
18	金	全体礼拝
19	土	就労家庭保育実施日
20	日	
21	月	個人面談(～28日まで)
22	火	
23	水	
24	木	年長園外保育(予備日31日)
25	金	全体礼拝
26	土	就労家庭保育実施日 保護者・教職員交流会(希望者)
27	日	教会バザー
28	月	
29	火	
30	水	10月生まれ誕生会 職員研修⑤
31	木	



チャプレンのページ

神様を感じる

子供たちをわたしのところに来させなさい。
妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。
(マルコによる福音書 第10章14節)



酷暑もようやく落ち着きを見せるころとなりましたが、近年、夏がとても長くなったように感じられ、子どもたちが成人するころ、地球はどうなってしまうのかと、皆様の心配になっておられるのではと思います。

ユダヤの国は町や村に子どもたちが多く暮らしていた様子が聖書にも描かれています。人々はイエス様に祝福をしてもらうため、子どもたちをイエス様のところへ連れてきました。弟子たちはそれを見て、「イエス様は大人の人たちに神様のお話をするために来られたのだ、子どもたちはあっちへ行きなさい」と言わんばかりに子どもを連れてきた人たちを叱りました。

しかしイエス様は、冒頭の言葉を言われ、子どもたちの頭に手を置いて祝福をされたのです。聖書のこの記事が登場するのは、ガリラヤにおけるイエス様の宣教活動末期、エルサレムへの旅を始める直前になります。エルサレムでイエス様を待っていたのは十字架の受難でした。その直前に、子どもたちが神様に近い存在であることを、イエス様は示されたのです。

ちなみに教会や幼稚園でも、児童祝福式、幼児祝福式を行うことがあります。司祭が子どもたちの頭に手を置き、「神様のお恵みが豊かにありますように」とお祈りをします。司祭は、イエス様の代理であり、見えないイエス様の祝福を、見える形で示すのが役割であり、祝福しているのは司祭ではなく、イエス様なのです。

ところで弟子たちはなぜ子どもを連れてきた人たちを叱ったのでしょうか。子どもたちはイエス様のお話が分からない、神の国の教えを聞いても分からない、神様のことを理解できないのだからイエス様のところへ来る意味がない…、とっていたのでしょうか。

果たしてそうでしょうか。初雁幼稚園では全体礼拝をはじめ、子どもたちと礼拝を共にする機会が多くありますが、子どもたちは自分自身の全身をもって神様を感じ、お祈りをささげています。お祈りの姿勢はしていても、心の中では別のことを考えてしまうこともある私を含めた大人と比べ、どちらが本当に神様に喜ばれるお祈りをささげているのでしょうか。祈りの姿勢を持っているのはどちらなのでしょう。そう考えていつも反省させられます。

難しい抽象的な神学を子どもたちが理解するのは確かに困難かもしれません。しかし、難しいことがわからなければ神様のことがわからないわけではない、全身全霊をもって祈りのうちに神様との会話の時を持っている子どもたちを、神様はとて喜んでおられるのを私たちは改めて覚え、自らの神様とのつながりを見直してみたいものです。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラス

まとの窓



つくし組

友だちの存在って素敵！



入園して5ヶ月が過ぎ、だんだんと友だちの存在が気になるつくし組の子どもたち。それぞれが別々の遊びをしている時でも、ふと興味が沸き、友だちの真似をしたり、持っているものが欲しくなったりと子どもたちの好奇心はフル稼働です。日々一緒に過ごす中で友だちを認識し、以前なら譲っていた子も「今は譲れない！」と体現したり、不安な気持ちを汲み取って欲しくて保育者に近寄ってきたりします。8月の後半ごろから「手をつなごう」という呼びかけに2人が手をつなぎ、「自分もつなぎたい」という思いで2人から3人、4人と増え、保育室を歩き回る姿が見られました。また、友だちが泣いていると「〇〇ちゃん、泣いてるね」「えんえんだね」という声も聞こえるようになりました。自分のことだけでも精いっぱいいなはずなのに、友だちのことを思いやれるつくし組のみんな。これからもいろいろな活動をしていきながら、それぞれのペースで心地よい時間を過ごしていけたらと思います。

もも組

暑い日には…



残暑が残る9月。公園へ行けない日も多く、「今日も暑いから何するの？フランチ館？ホール？」と聞いてくる子もいます。

どこでも楽しめるもも組なのですが、ここ最近よく行っているところがあります。それは、幼稚園から歩いて5分ほどで行けるやまぶき会館です。桜の木周辺では虫探し。柵越しからは園庭を眺められ、鐘もあるので鳴らしてみたり。奥にあるホールへの通路部分で遊ぶのも大好きです。直接日光があたらないため、椅子も柱もちょっぴり冷んやりして気持ちがいい。そして階段やスロープもあるのもポイント！

子どもたちに行くことを伝えるとほほ笑い「警察ごっこや隠れんぼできるね！」と言いながら喜んで出発。着くとみんなで追いかっこをしたり、スロープをのぼり階段を下りるのをエンドレスで続けてみたり。奥にある自動販売機まで走り、ジュース屋さんが始めると、とても賑やかです♪そして「楽しかったね」と話している間に園に到着するところもポイントの一つです♪

ちゅうりっぷ組

その子なりの一步を応援

2学期に入り、自分でできることを喜ぶ子どもたち。「朝からパンツで来たよ」「門で行ってきまですができたんだ」「朝の支度もう終わっちゃった!」と嬉しそうに報告してくれます。子どもたちの得意げな顔は、なんともキラキラしています。

少しずつ運動会で行う競技やダンスを始めています。恐竜好きの子どもたちが多いので、恐竜と触れ合う競技を考えました。最初クラスにやってきたのは、小さなカバさん。みんなで優しくカバさんの歯を磨いてあげました。するとカバさんは、友だちを連れてきてくれることになりました。きてくれたのは、「よしお」と「よしこ」の2匹の恐竜。「2匹の恐竜の歯をみんなで磨いてあげよう!」と歯ブラシを持って頑張ります。ダンスも最初から「僕はやりたくないんだ」と担任に伝えにくる子もいました。ダンスの音楽にノリノリの子もいれば、ジーンと眺めているだけの子もいます。でも回数を重ねるうちに手だけ動かし始めたり、リズムを刻んだり、その子なりに参加し始めていく様子が見られます。ドキドキする子も大好きな友だちと一緒になら、「やってみようかな」と挑戦していくようです。運動会当日はたくさんの方が来て、緊張したり、戸惑う姿もあるかもしれませんが、でも、「やってみよう」とその子なりの一步を踏み出す姿を温かく応援していけたらと思っています。

たんぽぽ組

諦めずに挑戦する姿

2学期が始まり、最初は少しドキドキした様子の子もいましたが、すっかりいつもの様子に戻りました。たんぽぽ組は暑さが苦手な子が多いようで、室内で遊んでいることが多いです。それでもクラスの活動が始まると元気いっぱい、やる気もいっぱい!先日、クラスで宝集めをしました。赤組と白組に分かれ、それぞれの陣地に玉を取って帰るゲームです。散らばった玉が全てなくなったら、相手の陣地から取ってOK!一度に持てるのは両方の手に一個ずつ、1分間でより多く集められたチームの勝ちなので、勝敗も明確に出ます。もしかしたら、負けてしまって「もうやらない」と言う子も出てくるかと思いました。しかしいざやってみると、負けても「次は勝つぞ!」と気合い十分!諦めずに挑戦しようとする姿がありました。1学期は「ドキドキするから」「負けるから」など、さまざまな理由で挑戦できずに応援している子もいましたが、一人一人が勝つために頑張ろうとする姿に成長を感じました。みんなで協力して一つのことに取り組む楽しさを少しずつ感じていってほしいです。今は宝集め用の宝箱を作って楽しんでいきます。

すみれ組

選ばれし「ソイヤ！」が「新ソイヤ！」に!!

私たちは「ソイヤ！」の伝道師、この言葉からはじまりました。かっこよく頭にハチマキを巻き、腕にはキラキラ輝く腕輪。2人の伝道師はみんなの前で下を向いていました。鳴り響く太鼓の音とともに、「ソイヤ！」と大きな掛け声とカッコいいポーズ。だんだん大きくなる声、大きく回す腕など、すみれ組の子どもたちは釘付けになりました。

「君たちは選ばれし『ソイヤ！』です。私たちが教えて、それを修得したら『新ソイヤ！』になります。『新仮面ライダー』、『新ゴジラ』みたいにパワーアップするのです。」この言葉を聞いた子どもたちはテンションマックス。「今日は選ばれたのでハチマキをまいて踊って見よう！」と、しおりイズムに感化された子どもたちは、初めてなのに大きな声を出し踊り進めていくのでした。

10年振りに踊られる「ソイヤ！」は梨紗先生の一言で決まりました。運動会では選ばれしソイヤたちが「新ソイヤ！」になってみんなの心をつかむはず！ぜひ、みてくださいね。曲目ですが、「ソイヤ！」で検索しても出てきませんが、お父さん、お母さんは聞いたことがあるはずの曲で、今年は懐かしさが感じられる年となっております。また、子どもたちは「新しい！楽しい！」という気持ちがあふれている年になると思います。

わが家のまど



(326) わが家のベランダ

補助職員 本吉 友佳



わが家のベランダには、プランターがいくつかあります。「食べられるものが良いな！」と野菜を育てています。今年の夏は、なすときゅうり、さつまいも。そして次男が学校から持ち帰った朝顔が並びました。花の苗をあまり手にとらないわが家。ひさびさの朝顔との対面に心がおどりました。

暑いあつい日々、朝窓を開けても息苦しかった8月。そんな朝でも朝顔が空に向かって、めいっばい花びらをひらき、咲いている姿が毎日の楽しみでした。気が向けば次男も水やりをしていましたが、主に朝夕とわたしの日課。帰宅するとカラカラになった葉や花も、バケツで水をあげしばらくすると、元気いっぱい。

この暑さのなかで元気になる速さに驚き、生命力にカンパイ！！それを見てわたしも炭酸水をゴクゴク。なんだか朝顔に支えられた夏休みでした。

そんな朝顔、2学期始まり学校へ。「早く持って行こうよ」という息子に「台風落ち着いてからにしようよ」と引き伸ばし作戦。持参するときは、しみりとしてしまいました。息子の学校では2年生から、入学した1年生へ自分が育てた朝顔の種をプレゼントしています。4月に同じ町内の2年生からいただいた種も、今わが家のベランダで元気に咲いています。今年の暑い夏を乗り越え育った種、来年どこかのお家で咲いているとうれしいな、と思います。

(327) 親離れ子離れ…手を離して目を離さず

補助職員 宇野奈緒美



わが家には子どもが2人います。中学生になり剣道部に入った男子は練習と大会で大忙し、部活仲間とカラオケやゲームセンターにも行くようになりました。コミュニケーション上手な小4女子は友だちが多く、放課後に友だちの家や公園に出かける日が増えました。

親離れの始まりで育児の終わりを意識するようになった私は、なにか新しいことをしたくなりました。子どもたちの習い事の待ち時間を使って水泳を始めてみたり（健康診断で判明した肺活量の低さにショック...）、歯医者に通ってみたり（詰め物が取れた歯を長年放置していた）、若いころに挫折したアコースティックギターを再開してみたり（今の時代は練習動画や無料楽譜が豊富で練習しやすいのに上達は亀の歩み）。夫も同じような感覚なのか、そろそろ替え時の車を車中泊可能なものにして遠くまで足を伸ばす予定を立てているようです。

親離れが新しい事を始めるきっかけになるなら、子離れも子どもにとって新しい事を始めるきっかけになるんだろうなあ。手を離して目を離さず、を今の目標に頑張ろうと思います。



今月の聖書のおはなし



☆ 10月11日「イエスはまことのぶどうの木」

ヨハネによる福音書 15:1~7

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」と、イエス様は話されました。イエス様をぶどうの幹、その幹につながる枝を私たちに例えられたお話です。幹にしっかりつながっている枝が豊かなぶどうの実を实らせるように、イエス様の愛にしっかりとつながっている人は豊かな実を結ぶことができると教えられたのでした。

☆ 10月18日「放蕩息子のたとえ」

ルカによる福音書 15:11~22

イエス様がたとえを用いて神様の愛を教えられたお話です。ある人に息子が2人いました。ある日、弟は父親に言います。「私がいただくことになっている財産の分け前をください。」父親は財産を2人に分けてやります。弟はその財産を全部お金に換えて、遠い国に旅立ち、放蕩の限りを尽くします。何もかも使い果たしてしまった時、その地方にひどい飢饉が起こります。食べるのにも困るようになった息子はある人のところに身を寄せ、豚の世話をするようになりますが、誰も食べ物をくれません。ひもじさの中で息子は我に返り父親のもとに帰ります。父親はまだ遠く離れていたのに、息子を見つけ、走り寄って首を抱き、接吻しました。そして、僕たちに命じて、息子に上等の服を着せてやり、祝宴を始めるほどに息子の帰郷を喜びました。

悔い改めて神のもとに帰るものを神様は待っておられます。いつまでも待っていてくださり許し愛してくださる神の愛が父親の姿を通して示されているお話です。

☆ 10月25日「やもめの献金」

マルコによる福音書 12:41~44

イエス様は賽銭箱にお金持ちがたくさんのお金を入れるのを見ておられました。そこへ貧しいやもめがやってきてわずかな献金銅貨2枚を入れました。イエス様は弟子たちを呼び、「この貧しいやもめは誰よりもたくさん入れた。金持ちは有り余る中から献金したが、この人は乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである」と言われました。